

経営する心
経営する技術
経営する数字
この三位一体が成功する経営だ

大企業の景況感 製造、非製造とも横ばい

日銀短観 7月2日発表

6月の大企業の景況感を示す景況判断指数〔「良い」から「悪い」割合を差し引いた値〕は、主要指標の製造業でプラス23になり、3月の調査と同水準の横ばいになった。9月の先行き判断は1ポイント悪化の22を予測。

一方、大企業・非製造業もプラス22の横ばい。9月の先行きは1ポイント回復のプラス23の予測だが、一般的に不透明感をにじませている。

業種別判断

大企業・製造業は、素材業種全体でプラス21と前回調査より3ポイント低下した。とくに木材、鉄鋼、非鉄金属が低下し、石油、窯業・土石の景況感は改善した。加工業種は全体で前回調査より2ポイント上昇してプラス24になった。改善をみたのは食料品、金属製品、造船・重機などだが、自動車は5ポイント低下のプラス25になった。

9月の先行きは、製造業全体で1ポイント悪化の22を予測している。素材業種全体では横ばいだが、木材、紙・パルプなどを除いて繊維、鉄鋼、非鉄金属が悪化を予測し、加工業種は電気機械や精密機械を除くほとんどの業種が悪化を予測し、自動車はさらに5ポイント低下のプラス20になった。

一方、大企業・非製造業の現状は、プラス22の横ばいだが、先行きは1ポイント回復してプラス23。なかでも小売が10ポイント改善のプラス21のほか、情報サービスや個人サービスは大幅な回復を予測している。

売上と収益計画

07年度の売上高は、前年度に比べ製造業が3.5%、非製造業が2.3%の増加計画。売上高経常利益率は製造業6.55%、非製造業4.12%を計画。

設備投資計画と雇用の過不足感

07年度の設備投資計画は、前年度に比べて製造業が11.2%と4年連続の二桁の伸び。非製造業も5.6%の増加計画で、大企業全体では7.7%と高水準の計画。

人手の過不足感を示す雇用人員判断は、製造業がマイナス6、非製造業がマイナス17と「不足感」が強く、先行きはさらに不足感が増している。

大企業の景況判断			
業種	2007年		
	3月	6月	9月予測
製造業	23	23	22
繊維	14	12	7
木材木製品	27	9	31
紙・パルプ	6	9	3
化学	27	24	24
石油・石炭	14	23	19
窯業・土石	12	18	22
鉄鋼	46	38	35
非鉄金属	37	29	23
食料品	6	12	4
金属製品	6	2	7
一般機械	46	49	45
電気機械	20	21	24
造船・重機	13	23	23
自動車	30	25	20
精密機械	20	20	26
非製造業	22	22	23
建設	1	2	2
不動産	53	53	44
卸売	22	23	20
小売	13	11	21
運輸	22	24	26
通信	34	37	31
情報サービス	41	41	52
電気・ガス	11	12	7
対事業所サービス	37	35	33
個人サービス	19	10	18
飲食店・宿泊	17	11	6
リース	33	30	20
大企業2469社 回答率 99.3%			

中小企業の景況感 製造、非製造業ともに低下

一方、中小企業(資本金2千万円以上1億円未満)の景況判断指数は、製造業が前回より2ポイント下がってプラス6になり、非製造業も1ポイント低下のマイナス7になった。

9月の先行きは製造業が2ポイント低下のプラス4、非製造業は3ポイント悪化のマイナス10と厳しい予測になり、大企業に比べて落差が目立っている。

	中小企業選択肢別社数構成比%			
	製造業		非製造業	
	3月	6月	3月	6月
よい	27	25	17	16
さほど良くない	54	56	60	61
悪い	19	19	23	23
よい-悪い(指数)	8	6	6	7

業種別の景況判断

上の表をみると製造業は3月に比べて「よい」とする企業の割合が27.25に減少し、「悪い」が横ばいのため景況判断指数はプラス6だが、大企業のプラス23に比べて格差はいぜん大きい。

素材業種では繊維、加工業種は自動車ほかは、殆どどの業種が前回より悪化している。素材業種では石油、鉄鋼の低下が目立ち、加工業種では自動車以外の全業種が景況感を悪化させている。9月までの先行きは全体で2ポイント低下のプラス4を予測しているが、電気機械や精密機械などを除くほとんどの業種が慎重な判断をしている。

一方、非製造業全体では、3月に比べて「よい」とする企業割合が17.16に減少、「悪い」が23の横ばいのため、景況判断指数も1ポイント悪化のマイナス7になった。業種別では不動産、情報などが改善したが、卸、小売業はいぜん厳しく、先行きも全体で3ポイント悪化を予測。

設備投資計画

07年度は前年度に比べて製造業が18.7%、非製造業が15%と共に減少計画。なお、06年度は製造業25.9%、非製造業1.4%それぞれ増加した。

売上高と収益計画

07年度の売上計画額は前年に比べて製造業1.8%の増加計画に対して、非製造業は0.0%の横這い計画。同売上高経常収益率は製造業3.94%、非製造業が2.49%を見込んでいる。

雇用と資金繰り判断

全体で人手不足感が増加し不足超7から先行きは11。資金繰りは前回より好転しているが、金利動向は現状も先行きも上昇判断。

中小企業の景況判断			
業種	2007年		
	3月	6月	9月予測
製造業	8	6	4
繊維	33	23	22
木材・木製品	8	13	14
紙・パルプ	19	19	11
化学	12	11	1
石油・石炭	2	10	13
窯業・土石	12	11	22
鉄鋼	49	38	30
非鉄金属	35	31	21
食料品	7	9	1
金属製品	21	17	11
一般機械	30	28	21
電気機械	15	11	15
造船・重機	24	23	19
自動車	25	26	13
精密機械	9	6	7
非製造業	6	7	10
建設	14	17	27
不動産	12	16	15
卸売	6	7	6
小売	20	24	19
運輸	2	1	5
通信	12	4	26
情報サービス	19	26	21
電気・ガス	2	7	4
対事業所サービス	9	11	4
個人サービス	1	1	7
飲食店・宿泊	14	11	9
リース	25	15	7
中小企業5455社 回答率 98.7%			

全国と群馬の経済動向

【県内の経済動向】(大型小売店) 5月の売上は前年を上回った。百貨店は前年を下回ったが、スーパーは前年を上回った。(家電量販) 5月は前年水準を下回った。前年がワールドカップ需要で盛り上がった反動と思われる。(乗用車販売) 5月の販売台数は前年を下回ったが、軽乗用車は好調に推移している。(住宅着工) 5月は持家、貸家、分譲ともに前年を下回ったため全体で大幅な減少。

(公共投資) 5月は国、市町村などの発注増加で前年を上回った。(企業生産) 4月の鉱工業生産指数は、電気機械や一般機械は高水準の生産を続け、自動車(普通車・小型車)も生産水準を引き上げている。(雇用) 5月の有効求人倍率は1.82倍と高水準にあり、雇用保険受給者数も前年比9.0%減少。

	生産関連指数				雇用		公共投資			
	鉱工業生産指数		大口電力使用量		有効求人倍率		公共工事請負高			
	左・前月比	右・前年同月比	前年同月比				前年同月比			
	全国	群馬	全国	群馬	全国	群馬	全国	群馬		
平成18年4月	1.4	3.6	0.2	3.5	0.8	1.3	1.04	1.42	17.3	5.6
5月	1.3	3.9	2.6	9.9	2.0	1.8	1.07	1.37	0.7	7.4
6月	2.1	5.0	2.0	6.1	1.5	1.7	1.08	1.39	13.2	21.7
7月	0.9	5.1	0.6	3.1	2.2	1.6	1.09	1.39	4.3	8.8
8月	1.8	5.9	2.4	5.2	3.0	1.9	1.08	1.39	13.9	27.3
9月	0.7	5.2	0.8	2.0	0.7	1.6	1.08	1.33	10.6	1.1
10月	1.6	7.4	2.1	3.5	2.3	3.6	1.07	1.33	2.0	13.5
11月	0.8	4.9	2.6	3.7	2.7	8.2	1.07	1.37	5.6	6.5
12月	0.8	5.1	2.4	0.2	1.8	8.0	1.07	1.37	1.7	16.2
平成19年1月	2.3	4.4	4.6	0.5	2.1	7.2	1.06	1.48	0.9	11.3
2月	0.7	3.1	0.2	2.2	1.8	8.2	1.05	1.50	4.6	97.9
3月	0.3	2.0	3.8	4.2	3.2	8.4	1.05	1.52	17.1	6.4
4月	0.2	2.2	3.7	0.9	2.2	5.2	1.03	1.68	1.5	1.6
5月	0.4	3.7			6.0	1.05	1.82	0.4	12.8	
	個人消費関連指標									
	乗用車登録台数(前年同月比)				大型小売店売上		家電量販店売上		新設住宅着工数	
	群馬の車種別内訳				前年同月比		前年同月比		前年同月比	
	全国	群馬	登録車	軽乗用車	全国	群馬	全国	群馬	全国	群馬
平成18年4月	5.0	6.0	13.5	11.7	0.5	0.8	-	2.4	15.0	3.0
5月	6.4	6.8	11.5	4.9	0.9	0.2	-	7.2	6.7	15.8
6月	2.8	2.1	3.8	17.0	0.5	0.3	-	6.1	4.7	20.5
7月	6.2	3.1	5.5	24.0	1.0	0.0	-	2.0	7.5	6.4
8月	2.5	8.4	1.3	31.5	0.6	1.4	-	1.9	1.8	5.3
9月	4.3	1.5	6.1	10.7	0.8	1.2	-	1.9	4.0	3.7
10月	3.6	1.4	3.8	13.6	1.7	1.8	-	5.4	2.2	29.8
11月	0.9	4.5	3.1	21.1	0.8	1.1	-	2.1	4.0	23.3
12月	1.6	2.7	4.1	19.6	1.6	2.5	-	6.1	10.2	53.6
平成19年1月	5.3	2.4	8.7	11.7	0.6	1.5	-	6.0	0.7	12.9
2月	4.2	3.0	11.2	15.6	1.4	0.9	-	1.7	9.9	13.3
3月	7.1	3.7	11.2	15.7	0.3	0.2	-	6.3	5.5	11.9
4月	7.3	2.0	5.1	3.6	0.8	0.7	-	0.7	3.6	1.0
5月	4.8	5.6	11.6	6.8	0.3	0.3	-	7.6	10.7	26.9

注:「大型小売店売上」は新設店を含むベース。

茂木健次の経営塾

「成功の経営」

その論理と結論 第十二回

赤字を楽しむ風流経営

赤字会社は金運金力に欠けているから赤字会社なのである。しかし赤字会社の経営者は、金運金力は欠けてはいるが、その他の運は本来なら良いはずだが、案外とその他の運も欠けている場合が多い。

金運金力がその他の運を駆逐するという原則と同様に金運金力の欠落がその他の運をも欠落させるという順応の原則が生じてしまうからである。

金運金力の欠けている者はその他の運を大切に、大事にして暮らしていくのが良い。それを大切にしないと金運金力もない、その他の運もないというメチャクチャな破壊的な人生になってしまう。

その他の大切な運を大切に暮らしていくと赤字会社もほどよく暮らせることができる。そうこうしているうちに、いずれは、さほど大きくはないがその人なりの、それなりの等身大の金運金力が満ちてくる。赤字でも生きられる金運金力が身に付いてくるのだ。赤字の経営でも倒産、廃業するまでは経営していればよい。

「経営とは創造活動」のことだ。創造とはリスク海で小船に乗って行う新しい活動のことだ。経営することそれ自身が尊いことなのだ。赤字である、ないとは結果のことだ。

赤字であれば資金繰りやなんやかやと色々としんどいことが多いが、それでも倒産廃業していない限りは精一杯努力、努力して、のたうちながら経営していることだ。丁度、病気になっても生きている間は生きていけばよいことと同じだ。

病気で死ぬのは一回限りだから死ぬ病気にならない限りは生きていけばよい。どうせ生きるならば「強く生きていけばよい」。医者にかかっても、薬をのんでも、なんでもかんでも生きていけばよい。

経営も同じこと、終えるまでは赤字だろうとなんだらうとやってやってやりまくるのだ。のたうちまわることだ。ノタウチ回って天地のこやしとなれ。止めは刺してもらえないものだ。安心してのたうちまわって天地のこやしとなればよい。

赤字でもよい。いい仕事をのたうちまわってやる。のたうちながらも、月を眺めて、風を感じて、花を愛でて、鳥の声をきく、赤字を楽しむ経営をやる。のたうちながら「柳は緑、花は紅」(蘇東坡)の景色を見る。これを風流経営という。

しかし、においはかく

どこに赤字の原因があるか、そのにおいをかく。どこにリスクのにおいがあるか、それをかく。風のにおいをかく。数字のにおいをかく。

「においをかく」この鼻の力、勘が経営にとっては一番必要な力だ。これは不安の効能でもある。とくに経営禅者にとっては欠かせない力である。

その上で、まず、気持ちが先に立つ。集中する。持続する。次に、戦略がくる。その次に戦術が合わさり、チェックをし、損したり益したり、小さな失敗や成功をしたり試行錯誤を重ねて一步一步実現していく。それしかない。それが経営の王道である。それしかないのだ。

不動明王が睨んでおるぞ

事業経営者よ!! 自分の上に親分を掲げておけ

赤字を垂れ流して、貪っている奴め、そんなことをしていて恥ずかしくはないか？
不動明王が睨んでおるぞ。

それは不動明王でもよい。尊敬する師でもよい。サラリ - マンなら必ず上がいる。上がいるからサボれず、頑張ることもできる。嘘を言えば叩かれる。間違えばどやされる。わき道を行こうとすれば直される。

上司という師があり、頭がいる。しかし、事業経営者には頭はいない。親分がいらない。サボりたければサボるし、脱税したって見つからなければ大丈夫だと思ってしまう。わがままで、独断で、専横になってしまいがちである。自らを常に正せばよいが、そうもいかないことが多い。

だからこそ、自分の上に架空仮定の頭を掲げて、常に見られているぞ、常に見張られているぞ、と思い、自分の考えや行為を戒めていることだ。今やっていることはどうか、叱られやしないか。道を誤った方向に進んでいやしいか、ぶったたかれやしないか。いつも不動明王が睨んでいる、見張っていると思って経営していれば、結構気が楽になるものだ。

悪党なら悪党らしくあれ

悪党ならば悪党らしく、小悪党ならば小悪党らしく、善人ならば善人らしく。悪党ならば悪党らしく、他人のせいにしなないで最後まで自分で責任をとることだ。

善人ぶって、善人を偽って、自分は悪くないと他人のせいにして自分で責任をとらないのが一番卑怯なりだ。不動明王が睨んでいるぞ。「真、善、美、正義」これを価値判断の尺度とすればなにも怖れることはない。

あとは勝手にしゃがれと開き直っていればよい。

破産について

己一人ぐらいいは、破産したってどおってことはない。世の中なにも変わらない。天地がひっくり返るわけではない。経済成長率が下がるわけではない。

同業社の誰かが喜ぶことはあろうが(債務者は大変になるから、債務は減らすこと)世の中なにも変わらない。ならば生きていくしかない。

ビクビク生きるよりも肚を括って生きていくしかない。托鉢乞食しても生きていく。生きるということに徹すればよい。怖れることはなにもない。それが肚で生きるということだ。人生ってそういうものだ。

托鉢乞食で生きていても世の中の為にはなる。あのような人にはなるなという教訓、見せしめになるのだから。世の中で悪事を働くよりは立派なものだ。

老いを楽しく生きる二ヶ条

(一ヶ条) 心にスキをつくっておく

几帳面で粘着質が良いとは限らない。ル - ズでいいかげんが悪いとは限らない。几帳面で、粘着質の人は働き盛りのときはそれなりの仕事をこなすと思うが、老いてくるとアルッハイマ - になりやすいという弱点がある。

ル - ズでいいかげんな人は働き盛りのときは少々問題ありと思うが、老いてくると楽観性が幸いして結構面白い老後がおくれるかもしれない。問題は几帳面さとル - ズさとを自己コントロールすればよい。

意図的にある時ある場面では几帳面に、別のある時ある場面ではルーズでとコントロールする。緊張と弛緩とを取り入れる。それが執われないということに結びついていく。

(二ヶ条) 中途半端のすすめ

中途半端で丁度よいということもある。中途半端だから深追いしない。それゆえにリスクは少ないということもある。完璧完全を求めるだけが人生ではないという価値観を取り入れると、人生はなお一層面白いものとなる。老いたらなおのことだ。あれもやり、これもやり、と色々手を出すのが完成しない。完成させたらつまらない、その上はないから。だから中途半端でやる。これが面白い。ここに気づかないようでは一人前の覚者とはいえない。ここに気づくと老後は二倍楽しい。

人間本来無一物

己のものなど何一つ無し、財産もなし、借財もなし。無いものもなし。働け、働け、ノタウチながら只只 MK 法の声を聞け。

命の起源は大宇宙の「気」である。気が元である。気には一物も無い。気は無一物だ。諸法空相だ。この気がモノを創り、モノを破壊して、再び創るを繰り返している。

気が金を儲け、気が金を損する。気が財産を築き、気が借財をつくる。気が売上げを創り、気が売上げを減らす。気が仕事をなし、気が仕事を終える。本来無一物とは気のことだ。気を元にして、元気で働け、働け。それが本来無一物のことだ。

経営禅とは「気」をもって事業経営をやることのことだ。金運金力とは「気」をもって MK 法の声を聞くことだ。身心脱落(考えるのをやめて、全身の力を抜いて、しかも気が充滿している。シ - ンとした絶対しじまの気に充滿している)したとき、この気は宇宙の気とぶつつぎに充滿する。

宇宙の気が自分の気に宿り、一体化する。自受用三昧境である。これで仕事をする。これで生きている。経営的には売上げは増えてしまう。利益は出てしまう。所得は増えてしまう。金運金力は活発に働き、金が増えてしまう。

人間的には悠々たる安心立命の世界で生きられるようになる。事業は大きくしてもつぶれたらお終い。小さくもつぶれない会社をつくるほうが難しい。金運金力があればつぶれない会社を創ることができる。

酒井雄哉 大阿闍梨の談

自分とは、今ある自分の姿以外の何者でもない。千日回峰行で何かを見つけたわけではありません。別に苦行に耐えたからといって、金銀財宝が降ってくるわけでもない。朝になれば、同じように太陽が昇る。何ら変わることはないのです。

「今、自分がやっていること以外、人間には何もありません。その小さな自分の一日を大切に生きることです。生きること、答えなどない。」 (PHPより抜粋)

まさにこの心境こそが悟りの心境であると思う。澤木興道老師は「座禅をやって何にもならぬ、この何にもならぬことを只々やる」と言っている。また「座禅をやれば仏になれる」とも言っている。心を澄ませた心境で事業経営をやればよい。

悟りとは欲を少しだけ削ればよい。それで安心がみえる。誰でも悟れる。そんなに難しいことではない。悟りを開くと、天から金が降ってくるとか、見世物になるような超能力が得られるとか、そうたいそうな大げさなものではない。

「花鳥風月」「雪月花」をありのままに見て、そこに命の元である気イコ・ル仏を感じる。他人をみてその中に気を見る。自分の気と同じと感じる。気の同一性を感じる。そこに慈悲が生じる。それを悟りという。それが仏をみるという。そんなに難しいものではない。(無流)

《以下、次号に掲載》

新・経営講座 好評開講中 !!

女性経営者や社長夫人、幹部社員向けの経営講座が新たに開講しました。第一回は、去る6月13日に開講し、茂木所長から「自分が積極的に変われば、周囲も変わる」をテーマに、豊富な事例を中心に実践的で分かりやすく講義しました。

講義の概略は、「心の持ち方や身体の生かし方、使い方」や、「MK方式の心を癒す三つ方法 分析法 自己暗示法 絶対的積極法」を解説しました。

例えば、「社員が思うように働かない」「社員が言うことを聞かない」事例の解決方法を考えてみましょう。この場合の選択肢は次の四つです。

やる気を出させる	命令系統	やめてもらう	我慢する
積極法の優先順位は			の順番です。
消極的な優先順位は			になります。

大事なことは、あれこれ同時に行わず、ひとつに集中して徹底的にやること。心を静め絶対的積極心でやらないと冷静な判断はできない。

次 回 平成19年7月11日 水曜日 以降 毎月第二水曜日

午後二時より開講

会 場 (株)中央税法総合研究所内
勢多郡富士見村小暮583番地
電話 (027) 288-8085

会費等 無 料

講義の前後には、水琴窟の音に耳を傾けながら心の集中度を高め、写経によって注意力を喚起するなど、皆さまがこれまで気付かなかった自分自身の「内なる力」を引き出す総合的な経営講座です。

【編集後記】

春季号では、日銀短観のなかでも経営者の皆さまが最も関心を寄せる「景況判断指数」の見方を解説しましたが、これを参考にして6月の日銀短観をご覧ください。

いってみれば、短観は全国企業 10,839 社による「景気の世論調査」ですが、貴社では現状や先行きをどう判断しますか。

茂木所長の「成功の経営」はいよいよ佳境に入りました。「容易な仕事でも全力を尽くして仕上げる。手は抜かない。好き嫌いはない。これが経営禅者、大人の仕事振りである。風流ある仕事である。これが喜望の道をゆく経営禅者の生き方である」と一。

皆様のご健闘を祈ります。

発行日 平成19年7月4日
発行者 (株)中央税法総合研究所
代表者 茂木 健次
所在地 勢多郡富士見村小暮583
郵便番号 371-0103
電話番号 (027)288-8085 代表